

審議会会議録

1	会議の名称	平成27年度第4回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成28年2月16日 午後2時～午後4時50分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	(1) 今後の公立保育所のあり方について (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援について
5	出席者名	委員 鴫田勝、宮里幸樹、井上久吏子、白井佳恵、齋藤隆広、鈴木眞廣、平野香織、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、渡辺務、菊池定勝 事務局 磯貝健康福祉部長、下間子育て支援課長、小野田課長補佐、鈴木子ども家庭係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括保健師、学校教育課細谷指導主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成 27 年度第 4 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・鈴木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立
事務局・鈴木	<p>本日、相澤委員、渡邊武雄委員、高橋委員の 3 名が欠席ですが、12 名の委員の方が出席されており過半数を超えておりますので、子ども・子育て会議設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・鈴木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第 23 条の規定により、会議は公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人はおりません。</p>
事務局・鈴木	<p>3 報告</p> <p>< (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について ></p>
事務局・鈴木	<p>次第 3 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、事務局より説明いたします。</p>
事務局・渡邊	<p>参考資料に基づき、ファミリー・サポート・センター事業について説明</p>

事務局・鈴木	<p>○質疑・意見</p> <p>特になし。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。渡辺会長、議事進行をお願いいたします。</p>
渡辺会長	<p>・会議録署名人</p> <p>会議録署名人については、菊地委員にお願いします。</p>
渡辺会長	<p>4 議題</p> <p>< (1) 今後の公立保育所あり方について ></p>
事務局・小野田	<p>議題 (1) 今後の公立保育所あり方についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p> <p>資料 1 について説明</p>
鈴木副会長	<p>○質疑・意見</p> <p>今市内の保育所、保育園の現状や民間移管の経過説明等についての説明がありましたけども、議題として挙げた趣旨は为什么呢。</p>
事務局・小野田	<p>公立保育所のあり方というものを皆さんと一緒に考えさせてもらって、その結果、公立保育所の数を減らす必要があるとか、そういうことがあれば、その時はその手法も含めて考えていきたいということで、今回は広い意味で「あり方」ということで出させていただきました。</p>
鈴木副会長	<p>あり方を話し始めてくださいということですか。</p>
事務局・小野田	<p>はい、そうです。</p>
渡辺会長	<p>具体的に平成 28 年度の 1 年間とかそういうスパンでしょうか。</p>

事務局・下間	<p>市としても公共施設のあり方を考えて行く中で、平成 28 年度のこの会議の一つの題材として皆さんで検討していただきたいということで、今回は現状について、あり方ということで紹介させていただきました。そして、平成 28 年度で考えていただきたいと考えております。</p>
鈴木副会長	<p>今までは、選考委員会とか検討委員会という形で協議してこられたわけですが、これからのあり方というのはここで考えるということで、選考委員会とか検討委員会は設置をしないということですか。</p>
事務局・下間	<p>今のところ設置をするもしないのも検討しておりません。設置するかもしれませんし、今はまだ市の方で方向性もない状況で、ここに議題として出させていただきました。平成 28 年度から会議をするにあたりまして、会議の回数が少ないものですから、この時期にこういうことがあるということをお話だけさせていただきたいと、議題として載せさせていただきました。すべてはこれからになります。</p>
渡辺会長	<p>部長、再配置構想の流れから説明をした方がわかりやすいかもしれませんね。</p>
磯貝健康福祉部長	<p>民間移管について検討していた当時は、検討委員会というのを設けましたが、当時はこのような子ども・子育て会議というような位置づけはありませんでしたので、検討委員会というものを設けて決めておりました。今回は、この子ども・子育て会議という正式な会議がございますので、この件につきましては、この会議の中でご意見をいただきまして進めて参りたいと考えております。そして目途としましては、平成 28 年度末までに方向づけをしていただきたいと考えております。</p>

<p>鈴木副会長</p>	<p>先ほど会長が仰いました公共施設の再配置構想については、経営改革会議の中で公共の施設のあり方として、現在プランとしてあげております。その中で、やはり保育所関係につきましても、統廃合を含め検討していくという方向づけがされており、そういうことを含めた中で検討していただきたいと考えております。</p> <p>民間移管の経過の説明の中で青堀保育園については「成功事例」とあり、飯野・中央については「再考する余地有り」と提言があったとのことですが、「再考する余地有り」とは具体的にどういうことですか。</p>
<p>事務局・小野田</p>	<p>民間移管の検証の中で保護者アンケートを取ることとしており、その結果で保護者から「良好」という判断もいただきましたので「成功事例」としております。</p> <p>飯野保育所については、富津地区という中で青堀保育園が民間になり、あと富津保育園は私立保育園で、公立の飯野保育所も民間になった場合、公立保育所が無くなってしまふことになり、やはり地区で見たときに公立がなければいけないという意見もあったようです。</p> <p>また、民間移管を受けた法人が安定的に運営できるかという視点でもこの時は選ばれています。青堀保育園は、当時よりも現在の方が子どもは増えておりますが、飯野保育所の入所する子どもは減っており、元々は定員 120 人で、当時も 100 人ほど入所していましたが、今現在は 68 人、定員も 100 人にすることをこの会議に諮り、減らしました。受ける法人側の運営面も考慮し、想定していたところよりも減っていることがあります、もう一度考えた方がという理由もありました。</p> <p>中央保育所は、資料 1 - 2 でもありますが平成 16 年の民間移管を検討した時には子どもが 81 人と平成 6</p>

	<p>年から増えている状況でした。このような状況もありまして民間移管の候補と選定されたところですが、その5年後の平成21年から現在まで、ほとんど人数が変わっていない状況です。人数は極端に減っていないのですが、民間移管を検討した当時よりもこの検証を考えた平成20年の頃と30人の程の差が出ていることから、「再考する」ということになっています。</p> <p>また、その当時民間移管を先行した他市では裁判にもなった例もありました。その経過も参考にしながら民間移管を進めましたので、富津市はそのような事態にはならず保護者からも「良好」と判断があったところなのですが、もう少し慎重にという意見もありまして「再考する余地有り」という報告になりました。</p>
鈴木副会長	<p>そういうことが理由だということはわかりましたが、その時点と比べて今はさらに幼い0・1・2歳の利用は増えているけれども、そのほかの利用は減ってきている中で、もはや移管するタイミングが無い状況なのかなと説明を聞いた中では思いました。そうするとこの会議で検討することはどういうことかなと思います。公立保育所のありようって何だろうと、存在意義って何なのだろうという話をしていけないといけな</p>
事務局・小野田	<p>その辺もこれから検討していただければと思います。</p>
渡辺会長	<p>これについては、部長からも話がありましたが、大きい流れの中からは行くと言財政改革の中で全てに制限を加えることなく、全てを改革の対象として、見直すべきものは見直していこうとするなかで、出てきた議論なのですよね。その中で保育園ばかりではなくて、公民館とかシニア館とかも含めて、市の持っている全</p>

	<p>部の公共施設に対して、何か効率的なやり方はないだろうかということをもみんなで考える1年間になると思います。その中の一環として、じゃあ教育施設はどのようなだろうと、議会からもらった資料をみると、富津市の地図をみると子育て支援施設が青堀から金谷まであって、その他の学校教育施設だとかの全てを今のままで良いのか、見直すべきなのかを検討しましょうということの中で、事務局の方からこの会議の中でも皆さんに考えていただきたいということだと思います。</p> <p>平成28年度の中で委員の皆さんの中でこうあるべきだとか、鈴木副会長からあったようにどのようなスタンスでいくべきなのかという話がありましたけど、その辺を含めて、この1年間を通して、議論してくださいということだと思います。それで平成28年度末までにある程度のこの会議としての方向性を、例えば保育施設は減らすべきではないとか、どんどん統合すべきだとか、その辺を皆さんの中で議論していきましょうということだと思います。是非それを頭に入れて置いて頂いて、会議の中で検討いただければと思います。</p>
鴫田委員	<p>その公共施設の計画というのは、我々は見ることではできないのでしょうか。</p>
磯貝健康福祉部長	<p>今日議会からお示しされたのは、案の段階ですので、まだ、公表はされておりません。今年度中にはホームページで公開されると思います。</p>
鴫田委員	<p>大きな管理計画を作る側の視点のストーリーが見えてこないと、こちら側は、そこまで担わないといけなとか、いやそうじゃないのだというスタンスで切り込んでいくのかわからないので、出来るだけ早い段階で見せていただけたら助かるなと思いました。</p>
磯貝健康福祉部長	<p>近々公表になると思います。大きな計画として経</p>

<p>松倉委員</p>	<p>営改革プランがあって、その具体的な取り組みの一つとして、公共施設の再配置としての計画がありますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。</p> <p>公共施設の全体の見直しということならば、保育所が今ある機能としては、保育所だけの機能ですけれども、他のものと一緒になって保育所の機能を持ちながら、教育施設とか公民館とかと一緒に機能していくというようなことは可能なのでしょうか。もし可能だとすると、どういうものが統廃合を考えていく対象の施設なのかっていうことが示されないと、ただ保育所だけの問題で、保育所の数を減らすとか民間移管するのとかの話で終えていいのかとか、一緒にすることが出来て、それで、経済的にとか、利用しやすくなるだとかがあるのならば、そういうところにも踏み込んで考えていくかとかはあるのかなと思って、そこまで考えていくのかなと思うのですが、どうでしょうか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>先ほど鴫田さんも仰いましたが、この会議ではどう責任を持つのかというのが明確でないといわゆる我々も対応していくのがわからないところがあります。また、今松倉先生が仰ったことで、今までは縦割り行政で、学校のことには教育委員会が主管していて、我々は立ち入れないというところがありました。これからはそういうところも崩して、今のような多角的な用途を読み替えていくというか、組み替えていくというか、そういうことも含めて考える位のことの中で聞かれているのかということ、その中で何が話せるかということも関係しているのだろうなということもあると思います。ただ単にここはいらぬのではないかだとか、残すべきだとかという単純な話とはちょっと違うと思います。だから、それが広がれば広がるほど、ここの役割とい</p>

<p>渡辺会長 磯貝健康福祉部長</p>	<p>うか、どういう責任を負わないといけないとかの関係の中で確認しないと前に進んでいかないと思います。</p> <p>部長、今までの話でどうですか。</p> <p>今2人の方からご意見いただきまして、単純に保育所の統廃合の話だけではなくて、色々な考え方、方向づけがあると思います。仰られたように教育施設として複合的な方向に持っていくのか、それを平成28年度にこれから皆さん方から色々意見をいただいて、この会議の中でまとめていただいて、こういう方向が良いのではないかと、その方向性が2つ、3つあるかもしれませんが、そういうもので出していただきたいと思います。そして、前回の総合戦略の関係で市長に報告しましたが、今回もそのような形で市長に報告ということを考えております。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>資料1-3のところ、この時にも色々話し合われて、今私達が話し合っていることもあったと思います。その時の皆さんの考えもあると思いますので、この時の話し合いが消滅されてしまっはいけないし、今話していることと重複した内容もあると思いますので、そういった資料があれば、前の方の意見が消滅しないように私達は重複しない形でどのように持っていくか考えていけたらいいかと思います。</p>
<p>事務局・下間</p>	<p>今回はこういうことを今後話し合っていたきたい形で、問題提起ということでこの資料だけにしました。今後は仰るように民間移管の結果なども今後資料として出していきたく思っております。</p> <p>今日の新聞に他市でも保育所・保育園について色々検討を行うのに計画を立てて、検討するということが載ってました。やはり検討会なり計画なりをきちっと立てていかないといけないとは思っています。ただ、</p>

渡辺会長

これを作るのかというところまでは現在至ってはいない状況です。いずれにせよこれをきちんとした形で、実際には子どもの数が減ってくる、この中で保育所・保育園・認定こども園があつて、子ども達のためになるのか、市民のためになるのか、どうしたら富津市の保育所の運営がより良く、子ども達のために、将来のためになるのかというところを考えて、富津市の子ども・子育て、保育所のあり方を検討していきたいと思っておりますので、皆様のご意見をいただいて、計画なり、検討委員会なりに反映していきたいと思っております。

今のところは、この子ども・子育て会議で、保育所のあり方、再配置とか統廃合などを決めてくれとは考えておりません。この先にどのような形になっていくかはわかりませんが、ご意見をいただきたいというスタンスです。

先ほど松倉さんが仰いましたが、統廃合をして色々な機能を持たせればという考えもありますよね。それをこれからどんどんこっちから提案して、こういうこともできるよねと言っていくというスタンスでもいいわけですよね。例えば富津市内に公民館は3つあるわけですが、そのうちのひとつを廃止しましょうと話になったときに、地元の人達は「冗談じゃない、廃止にされては困る」と当然反対するわけです。だけど、その機能の内、これとこれについては、こっち移管しましょう、この機能はここで補完できますよとやると「じゃあ廃止でもいい」となるかもしれないですよね。その辺の知恵を皆さんにお借りしたいというのが、行政側の本音だと思います。まだ具体的に個別な計画が出てきているわけではないので、今のうちに機能をどう

<p>磯貝健康福祉部長</p> <p>鈴木副会長</p>	<p>やって活かすか、残すかということ本来の働きということはどうやって残していくかを含めた中で皆さんにご意見とかアイデアを出していただきたいというスタンスでいいのですよね。</p> <p>会長の仰る通り、皆さんの忌憚のない意見、アイデアを出していただいて、良い方向に持って行きたいと思えます。よろしく願いいたします。</p> <p>あくまでもここは子ども・子育て会議なので、公共施設の使い方まで意見を出すことは、ものすごく守備範囲が広がってしまって、本来のここで詰めなくてはいけないことが薄まってしまうのも困ると思えます。あくまでもそういう利用について広く考えるということは、子ども・子育てについてどういう利用の仕方があったら、どういう役割機能を持たせたらいいのかという視点でいつも考えて行かないと、こういう話をしようと思ったら違う話になってしまうというのは困ると思えます。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>この件については、以上でよろしいでしょうか。</p> <p>< (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援について ></p>
<p>渡辺会長</p> <p>事務局・下間</p>	<p>議題 (2) 富津市の今後の子ども・子育て支援についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p> <p>資料2について説明</p>
<p>井上委員</p>	<p>本日、井上委員から「学童期の子ども達の支援について」ということの資料の提供がありましたので、説明をお願いします。</p> <p>資料について説明</p>

鈴木副会長

補足ですが、これは自分が県の次世代育成支援の行動計画を作るのに関わったときに、熊本にいい実践があるというので、視察に行かせてもらったときの資料です。平成15年という10年以上前の古い資料なんです。町を挙げて次世代を担う子どもがどう育つかということに応援しようということで、具体的にどういう応援をしたらいいだろうかということ町全体でどういう街をつかっていくのかどうか、子どもがそこにどう参加していくのか、地域の商店街としてはどういうことができるのだろうかとか多角的な応援のスタイルを具体的に会議の中で導き出してきたというところがすごいなと思いました。このとおりにやって欲しいと思って資料を用意したわけではないのですが、何か考えるきっかけになればいいなと思います。今の時代は社会がどうしても年齢ごとに輪切りになってしまっているというか、交われないという風になっていると思います。子どもは子ども、学齢期の子は学齢期の子、社会に出れば社会に出る、高齢者は高齢者と輪切りになっていて、それぞれが違う生活圏を持っている。その中でこうして欲しいという願いもバラバラであったりする訳で、街づくりということを考えるとそういうバラバラでいいのかどうかということがありました。ここは子ども・子育て会議なので、子どもにとって素敵な街ってなんだろうってことを考えて行かなくてはいけないでしょうけど、やっぱり学校で育つということもいっぱいあるけれども、学校ではできないことも明らかにあって、じゃあ学校以外のというと家庭とか地域となるのですが、その家庭や地域というのが放り出せない状況にあるので、その中に拠点になるというか、寄れるような処というのが、作り出せたらいい

のかなという思いがあります。先ほどの説明の中で公共施設を縦断的・横断的に、多角的な利用の仕方という話があったのですが、同じように子どもが育つということも、もうちょっと既存のフレームの中だけで考えるのではなくて、そのフレームを壊して行って、こういう使い方をしたらこういうことが出来るのではないかとか、子どもにこういう出番が作れるのではないかとか、そういう発想をしていかないといけないのかなということがあって、そういうことを考えてもらうきっかけとして、ここからアイデアが生まれてくるといいなと思います。

また、「子育て応援はがき」を中期計画に入れてもらったわけですが、中期という扱いがどの位の視野に入れた扱いの中期なのか、もうちょっと詰めたいなと思うし、かなり具体的な事業なので予算立てしてもらってゴーサインが出れば、それに向けて準備が出来て、一番早く取り組めることかなと思います。新年度の予算に盛り込まれていないと聞いていますので、一番早くというと補正予算ということになると思いますが、そういう段階できちっと組んで具体的に動き出したいなと私の中であって、それでどの位子どもが産まれているのかというのを資料で用意してもらって、実際毎月はがきを出すとすると52円×何人というように数字を弾いていかないと何も具体化していかないかなと思っています。

もう一点として、最近フィンランドで妊娠期からの切れ目のない支援ということで「ネウボラ」という仕組みがあります。これは「アドバイスをする」という意味ですが、こういうことが日本にも紹介されて、今いろんな人が「ネウボラ」という言葉を語り出してい

<p>渡辺会長</p> <p>事務局・鈴木</p>	<p>るところです。日本でも子どもの貧困ということが社会問題にもなっていますが、どうやって子どもの貧困に対してどうやって向き合って行ったら良いのか、そのところが大きな課題としてあると思います。もちろん貧困家庭への経済的支援ということが大きいことなのですが、じゃあそれをここでやるというのはなかなか出来ないことでもあるので、経済的な支援はどこかで考えてもらうとして、もう一方でどういう風に貧困家庭を助けていけるのかということを考えてときに、やはりここでも考えているように妊娠期からの支えが大きくて、妊娠したときに頼れる処がある、頼れる場所がある、頼れる人がいるということがものすごく最初の出会いとして大事だと思います。そういうことをフィンランドの実践から日本中が注目し始めているということを紹介させていただきました。ネットで「ネウボラ」と検索すると今色々な所の取り組みが出てきます。そういうことも皆さんの興味の一つとして、頭の中に入れていただいて、議論していただければと思います。</p> <p>今回は、私と井上委員の方で資料を出させていただきましたが、皆さんからも色々なことを出していただいて、会議の中で話題にして進めていけると良いのかなと思いました。</p> <p>それでは、この後グループ討議に移りたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。</p> <p>会場等の説明</p>
---------------------------	--

<p>事務局・鈴木</p> <p>渡辺会長</p> <p>松倉委員</p>	<p style="text-align: center;">＜グループ討議＞</p> <p style="text-align: center;">（１４：２０から１５：１０まで）</p> <p style="text-align: center;">＜全体会＞</p> <p style="text-align: center;">（１５：１７から）</p> <p>それでは、皆さまお集まりになりましたので、引き続き全体会をお願いいたします。</p> <p>グループ討議の結果について、妊娠マタニティ期からお願いいたします。</p> <p>私達の方では、２ページの経済面の保証と生活・子育て環境の充実のところまでしか話し合うことが出来ず、１ページのところまででした。すぐに取り組めるものとして、仲間づくり、情報提供の充実というところで、今現在取り組んでいる内容で、昨年のマタニティを対象とした講座が７月と１１月にあったそうです。妊娠期にあるお母さんの参加は２回で３人ということだったとのことで、７月は１０人のうち１人、１１月は７組の親子と２人だったとのことです。これは公立保育所でやられていたとのことでしたが、公立保育所で開催をしたら公立保育所に関係する方が参加するというので、開催する場所も検討していかなくてはならないのではないかということがありました。どこかの幼稚園や保育園というようなことではなくて、何かそこに関係しない人も参加しやすいような場所の確保も今後検討していかなくてはならないのではないかということをお話し合われました。</p> <p>情報提供の充実ということでは、今現在母子手帳をもらいに来た人に対して、近隣の市と比べてかなり個別に丁寧に保健師が関わりを持ってきているという</p>
---------------------------------------	--

渡辺会長
鈴木副会長

ところがあるようで、その点は富津市の良い特徴だと思うので、その部分についてをもう少し宣伝したら良いのではないかと意見がありました。母子手帳をもらいに来た時に必ず保健師がかなり時間をかけて妊娠期のことについて説明をしてきているということで、その個別指導や相談の体制が整っているということについて、もらいに来ることにネーミングをつけて、アピールしようと以前から言っていたのですが、私達ではおろそかになっておりました。そのネーミングというかその部分を検討していきたいとも思いますし、もし、そういうのは公募もできるのか、どういう方法をとるのか良いのかわかりませんが、そういうようなことをしながら富津市が行っている取り組みについてアピールしていけたらという方向性で話し合いました。

引き続き、未就園児についてお願いします。

資料では、すぐに取り組めるものと中長期的に検討するものと整理をしてもらいましたが、すぐに取り組めるものとしてすでに動き出していることで、私達は子育て応援はがきを具体化させるということが力として一番大きいかなと思って、早く始めたいという前提で話をしました。一応自分が皆さんに資料提供したものは2歳の誕生日までの24通なのですが、3歳になると幼稚園か保育園のどちらかにだいたい入るだろうと3歳まで欲しいのではということで、もちろん既存の24通の中身も検討しなくてはいけないのですが、プラス12通を準備していかないといけないよねという話になりました。その前にどの位の費用が掛かるかということが重要なので、事務局に人口・出生率等を調べてもらいました。だいたい1年間で210人から220人位産まれているようです。人口は減っているのを、

出生率も落ち込んでいると思ったら増えているのでびっくりしました。

はがきについてですが、裏面については前回にご案内したとおり誕生おめでとうから始まって、2歳の誕生日までの毎月1通、その時々2か月児、3か月児のその時々発達に応じた内容での支援、情報提供をしていくということにはがきの主面にはなっています。表面の方の上段部にあて名書きを書き、下段部に富津市の情報が流せるだろうと、具体的な話題として絵本の読み聞かせサークルの活動とか講座がいつどこであることがわかると行ってみたいということになるので、そういう情報があるといいなと話題になりました。それについては、情報を知りたい人に伝えることが目的の一つですが、もう一つは、絵本の読み聞かせをするってことをどうやってみんなに伝えていくか、発信するか、発信する方法が限られているので、そういうところを使えたら、きめ細かく伝えていけて、そういう使い方も出来るだろうと思います。

市の方の予算の関係もあるので、どこまでやるのかはきちっと詰めなくてはいけないと思いますが、表面の半分位は商業的な広告を入れて、協賛団体の応援をもらいながら、費用を稼いで出すという方法もあるのではないかという話もありました。

また、もう一つは、松倉先生の報告と重なりますが、マタニティをどうするかということです。母子手帳をどの段階で取りに来るかということが、恐らくまちまちなので、マタニティ期をどういうタイミングでフォローするか、重要だけどちょっと難しいのではという話で、それで何通りか、3通りか4通りか用意しておいて、早く取りに来た人には早い時期の情報を、中く

らいに来た人には中くらいの情報を、ぎりぎりで来た人にはぎりぎりの情報を流す。そういうことで、毎月ってわけにはいかないけど、何か月に一回とか妊娠期の月齢によって出すというのがいいのかなと話になりました。実際にどういう内容のものをお知らせしたらいいかというのは、健康づくり課と相談させてもらって、勉強していきましようということでした。それで、実際に予算立てがついて、実施できる目途がついて、いよいよ出すって話になると、誰がそれを作業するのかってことになります。公募をしてそれをやりたいて人がいてくれたら、一番いいなあと思っていますけど、滑り出しとして、うちで子育て支援センターをやっているの、そのスタッフが事務局みたいになって、公募していただいた人に手伝ってもらって動き出すということでどうかと今日の会議の中で聞いたら、参加された人はそれで始めたらいいのではないかと返ってくれました。今のアイデアとしてはそんなところでは、もちろん公募が出来て、色んな人がお手伝いしたいといっぱいいてくれるといいなあと思っています。次の平成 28 年度の会議のときにその辺を健康づくり課と詰めて、あと 12 通加えるというのも具体的に詰められたら詰めていきたいと思えます。作業についても、具体的にどうやったらいいのかというのも皆さんに報告できるようなことがあったら、案として詰められたらいいなというところまで話が行きました。

続いて学齢期についてお願いします。

学齢期では、5 ページの地域で子どもを見守る体制づくりについての話をさせていただき、2 点に絞らせていただきました。1 点目は子どもの安全を考え、登下校のパトロール隊の内容をしっかりと把握し、見直し

渡辺会長
岡村委員

していったらどうでしょうかということでした。各小学校にパトロール隊があるようですが、各学校で内容が違うようで、しっかりとした決まりが無いようです。なので、教育委員会に話を持って行っていただき、そこから各学校の校長先生にどういった内容で進めているかなどのアンケートをとって、各学校と相談して、しっかりとしたパトロール、安全を見てもらいたいなということをお話ししました。ある小学校では、PTAの方がパトロールのジャンパーを用意しているとのこと、それを着ていてパトロールをすることでこういう人がいるのだなということだけでも、安全に考えていただいている認識をもってもらう形もあると思います。

2点目は、私の経験談ですが、小学校では防災頭巾が座布団代わりになって6年間使いますが、富津市の中学校では、自転車で通っている子が7割方なので、自転車用ヘルメットがあるからということで、防災頭巾が用意されていないらしく、何も無い子もいるそうです。私が中学生のときは、防災頭巾を入学の時にももらいました。それが今まだ使える状態だったので、防災訓練をやるときに学童に持っていったのですが、他の指導員さんは持っていませんと言われてびっくりしました。富津市は安全であまり大きな災害もないからか、小学生までは小さいので防災についての意識はあると思うのですが、中学校ではあまり意識は無いのかなと思えました。そういったものは大人になっても使えるので、そういうものを用意できたらと思って話をしました。

渡辺会長

今、発表のありましたグループ討議の報告について、どなたかご意見、質問、補足説明がありましたらお願い

松倉委員	<p>いいします。</p> <p>子育て応援ハガキは、いくら位費用はかかるのですか。</p>
鈴木副会長	<p>210人位産まれていて3歳までだと210人×52円×36回ですかね。</p>
事務局・下間	<p>393,120円で、40万円位ですね。</p>
井上委員	<p>マタニティが入るともう少し上乗せですかね。</p>
松倉委員	<p>保健師さんの話では、富津市では母子手帳を取りに来る人はかなり早い段階で、11週までに取り来る人は90%を超えているそうです。</p>
鈴木副会長	<p>そうすると毎月はいかなくても、そこにもう200人位ですかね。</p>
松倉委員	<p>さっき話し忘れたのですが、講座のことで、場所の問題もあると思うのですが、それ以外に働いているお母さんが多いと思います。そういう講座が開かれていても何故来ないのかということを追及しないと、数の問題なのか、内容の問題なのか、場所の問題なのか、はっきりしないと、今後の方向性もわからないよねという話がありました。</p>
鈴木副会長	<p>マタニティの人の情報が今まで十分取れなかったことと、やっぱり回数の問題で、ちょうどいいタイミングで講座が開かれていないという両方じゃないですかね。未就園の方でもそういう話をしたのですが、そういう事業がきちんと体系づけられていて、今月はどこかちゃんと計画を立てられてやれば、ちょっと遠くなるかもしれないけど、このタイミングでちょっと行ってみようとか、お母さんの方でも計画を立てられるかなというのがあるかなと思います。今までは回数も少なかったもので、タイミングが合わなかったりしたことはあったと思います。</p>

渡辺会長

他にありますか。よろしいでしょうか。この辺はまた事務局で取りまとめて、次回の会議の時に方針作りに使っていただきたいと思います。

5 事務連絡

- ・ 地方創生交付金事業について
(チャイルドシート貸与事業、ライフサポートファイルについて)
- ・ 里親入門講座について
- ・ 来年度の会議開催予定

それでは、以上で第4回会議を終了したいと思います。皆さんお疲れ様でした。

閉会